

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, February, 2009

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

2月の状況 (佐藤)

☆ C/2007 N3 (Lulin) (写真 a)

彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML という。)には観測報告とともにコメントが寄せられた。

2月2日、千葉県船橋市の張替憲氏から「…当夜(2日)の3時過ぎ、ルーリン彗星の観測中に南天の透明度が急に悪くなりました。雲が房総南方沖を通過しているのだろうとその時は思いましたが、実は小爆発した浅間山の噴煙が通過していたと後でわかりました。…緩やかに明るくなっています。コマの端に8等、9等の二重星がありました。」とのコメントがあった。

19日、熊本県南小国町の宇都宮章吾氏から「おはようございます。宇都宮です。11日ぶりのLulin彗星の眼視観測です。肉眼は5.2等で少しボヤけて見えるようになりました。(3.6cmBでは、5.0等級)15cmBでは、彗星東側のスパイク状テイルがはっきりと分かり、エッジオン銀河+M31銀河のような、見ごたえのある姿になってきました。」との観測報告とデジタルカメラによる画像が送られてきた。

22日、愛知県岡崎市の小川祥昭氏から「地球最接近3日前のLulin彗星はかなり明るいですね。7×4cmBでも歪な形と尾が確認できます。20×10cmBではコマがきらりと輝いています。…」とのコメントがあった。

この頃、各地から眼視報告に加え肉眼での観測も伝えられた。また、尾は細長い銀河のようで、特に東側のダストテイルが明るく見えていた。

☆ C/2009 B2 (LINEAR)

2月7日、oaa-comet MLに高知市の村岡健治氏から、「C/2009 B2の軌道改良をしたところ、発見観測の残差の悪さが目に付きました。…楕円軌道決定と同じような軌道に落ち着きました。今後の観測で、放物線に戻るかもしれませんが、観測者の方々、追跡をお願いします。」とのコメントと2つの軌

道要素が報告された。その後、23日に同じく村岡氏から「短周期の逆行軌道にはなりませんでした。やはり、発見観測が悪すぎたようです。…」とのコメントと1月29日から2月21日の門田健一氏の観測を加えた46個の観測による315年周期となる楕円軌道要素と残差が報告された。

○ 眼視観測報告

C/2006 OF<sub>2</sub> (Broughton)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Feb.	1.72	11.2	2.0'	5	-	-	4/5	4/5	78×32cmL	張替 憲
	14.54	11	1.5	5	-	-	2/5	3/5	78×32cmL	張替 憲
	21.49	11.8	1.3	5	-	-	3/5	3/5	78×32cmL	張替 憲

C/2007 N3 (Lulin)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Feb.	1.75	6.0	8.0'	6	-°	-°	3/5	4/5	34×32cmL	張替 憲	中央集光
	1.84	6.4	5.0	6	-	-	-	-	20×10cmR	永島和郎	
	5.75	8.1	3.5	6	-	-	3/5	3/5	22×15cmR	関 勉	
	6.83	6.3	9.4	6	-	-	-	-	20×10cmR	永島和郎	
	16.83	5.8	12	5	-	-	3/5	3/5	10×7cmB	佐藤裕久	月明り
	17.62	5.6	12	5/	0.4	280	3/5	3/5	10×7cmB	佐藤裕久	①
	18.75	5.0	20	6	0.7	-	3/5	2/5	12×3.6cmB	宇都宮章吾	②
	19.75	5.8	10	5	-	-	4/5	4/5	22×15cmR	関 勉	
	20.67	4.8	15.0	6	0.4	100	4/5	3/5	7×5cmB	張替 憲	
	21.64	7.2	10	8	-	-	3/5	3/5	40×20cmL	黒田 修	
	21.71	4.8	16	6	0.3	-	3/5	3/5	7×4cmB	小川祥昭	③
	21.76	4.6	20	6	1	-	2/5	3/5	12×3.6cmB	宇都宮章吾	②
	21.77	4.8	-	-	-	-	2/5	3/5	Naked-eye	宇都宮章吾	
	23.64	5.5	16	4	-	-	3/5	3/5	10×7cmB	松本敏一	
	23.70	4.6	17	5	-	-	2/5	2/5	10×7cmB	佐藤裕久	④
	23.70	4.8	-	-	-	-	2/5	2/5	Naked-eye	佐藤裕久	
	25.66	5.2	-	-	-	-	-	-	Naked-eye	関 勉	

① 東側にも同じぐらいの長さのイオンテイルよりやや明るいアンチテイルが見える。

② 25×15cmB 併用 ③ 33×10cmB 併用 ④ Anti-tail 0.3°, p. a. 120°

29P/Schwassmann-Wachmann (写真 b)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Feb.	1.71	12.0	2.5'	2	-	-	4/5	4/5	78×32cmL	張替 憲

144P/Kushida

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Feb.	14.53	10.0	4'	4	-	-	2/5	3/5	49×32cmL	張替 憲
	21.47	9.8	5.0	3	-	-	3/5	3/5	49×32cmL	張替 憲

○ 1～2月に検出された彗星

- ☆ 213P/2005 R2 = 2009 B3 (Van Ness) 1月31.36日 UT、G. Hug (Scranton, カンザス州)は、Sandlot 天文台の 0.56-m 反射で得た画像から P/2005 R2 を検出した。MPC 62880 の予報に対する修正値は  $\Delta(T) = -0.06$  day であった。(IAUC 9017, 2009 Feb. 1)
- ☆ 214P/2002 CW<sub>134</sub> = 2009 B4 (LINEAR) 1月31.5日と2月1.4日 UT、G. Hug (Scranton, カンザス州)は、Sandlot 天文台の 0.56-m 反射で得た画像から P/2002 CW<sub>134</sub> を検出した。MPC 56802 の予報に対する修正値は  $\Delta(T) = -0.32$  day であった。(IAUC 9017, 2009 Feb. 1)
- ☆ 215P/2002 08 = 2009 B5 (NEAT) 1月22.5日と2月2.5日 UT、G. Hug (Scranton, カンザス州)は、Sandlot 天文台の 0.56-m 反射で得た画像から P/2002 08 を検出した。MPC 59599 の予報に対する修正値は  $\Delta(T) = -0.34$  day であった。(IAUC 9018, 2009 Feb. 2)
- ☆ 216P/2001 CV<sub>8</sub> = 2009 D1 (LINEAR) 2月19日と20日 UT、J. V. Scotti (月惑星研究所, Arizona 大学)は、Spacewatch の 1.8-m f/2.7 反射で得た画像から P/2001 CV<sub>8</sub> を検出した。MPC 54170 の予報に対する修正値は  $\Delta(T) = -0.37$  day、同じく 2008/2009 Comet Handbook に対しては  $\Delta(T) = -0.24$  day であった。(IAUC 9021, 2009 Feb. 20)

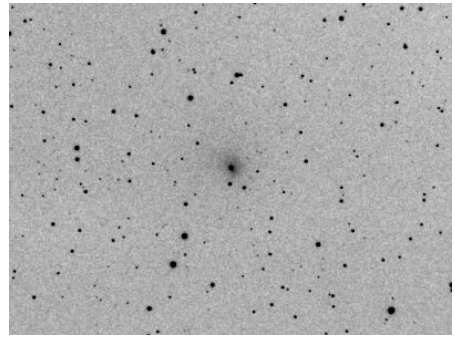
その他比較的明るい彗星は、C/2006 W3 (Christensen)、67P/Churyumov-Gerasimenko、C/2008 T2 (Cardinal)などであった。



(写真 a) C/2007 N3 (Lulin)と土星 2009, 02, 23

23h46.0m-54.6m (JST) exp. 60s×8 80mmf/4+CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) 29P/Schwassmann-Wachmann 2009, 02, 21

20h30.0m-40.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏